

【症例1】

4G

第4グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・連絡先のまとめ作成(かかりつけ医、ケアマネ、薬局)
- ・連絡先の取り決めをする
- ・娘を落ち着かせて状況の聞き取り
- ・電話口に訪問看護ステーションや在宅医師の電話番号を貼っておく(緊急時はこちらなど)
- ・毎月訪問時緊急時の対応について確認する(家族とケアマネ)
- ・在宅医療の医師へ状況説明し、判断をあおぐ
- ・まず、呼吸、脈拍、意識レベルの確認をする
その後→医師・看護師へ連絡・相談
- ・主治医か訪問看護師に状況を伝える

※ まずはどこに電話・確認

《普段からやっておいたほうが良いこと》

- ・薬の置き場所の共有
- ・お薬の情報をまとめておく
- ・管理ファイルの作成
- ・意思表示を明確にできる方法をどうするか？
ヘルパー⇔家族(娘)、訪問看護⇔家族(娘)、医師⇔家族(娘)、
医師⇔訪問看護(指示書)
- ・家族間で情報共有、常にいる長女、たまに来た次女
- ・家族間で状況・相談をする
- ・急に動かなくなった←・事前に動けなくなる可能性を想定・説明・共有
←・「どう動けなくなる」を事前にライン決めする
- ・対応フローチャートの作成

※ ・同居外の家族にも対応方法を共有

- ・あんしんカード
- ・お薬情報

【症例1】

第7グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

《病歴》

- ・いつからそのような状態か
- ・ホームヘルパーからの直近の報告

《キーパーソン》

- ・親子で再確認
- ・キーパーソンはなるべく同居者(夫)
- ・娘とのコミュニケーション
- ・家族とのコミュニケーション
- ・妻の認知度を知る

《意思確認》

- ・居宅療養管理指導票の確認
- ・意思表示ノートの確認、再確認、情報共有
- ・本人の状態の確認、救急要請を取り消すか

《訪問医療・看護へ》

- ・訪問医との連携、本人の意思
- ・訪問医師、看護師の回数を増やす
- ・関係各所に連絡(電話)
- ・救急隊が訪問看護師や訪問医師へつなぐ
- ・退院後の口腔ケアを含む歯科的対応

《普段からやっておいたほうが良いこと》

《連絡先》

- ・あんしんカードの記入
- ・緊急時の連絡体制の確保

《薬剤確認》

- ・薬などの保管場所の確認
- ・服薬状況
- ・既往歴やお薬手帳の準備
- ・アレルギー歴
- ・副作用のあった薬

《家族教育》

- ・民間救急
- ・救急隊を呼ばないように教育
- ・病院へ持参するものをまとめてく

【症例1】

1 G

第1グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・医師・看護師に相談
- ・在宅医療の医師に連絡
- ・まず訪問看護に連絡して状況を確認してもらおう
- ・救急隊がくるまでに訪問医に連絡をとる
- ・ほかに、訪問看護、訪問医師、夫、娘などと本人の意思を再確認し、取り消す
→娘の意向確認→取り消してよいか？

《普段からやっておいたほうが良いこと》

【日頃からの備え】

- ・娘の意向確認
- ・娘と交えての担当者会議開催
- ・普段から関係者との方針の共有（ふだんいない人）
- ・「在宅での看取り希望」を別居の娘とも共有しておく
- ・かかりつけ医、かかりつけ薬局を本人以外も把握
- ・訪問診療時に娘も同席するようにお願いする
- ・普段から娘さんに情報提供をする
- ・緊急時の備え、本人・家族・ケアマネ・医師など事前に確認
- ・緊急時の手順書を用意
- ・急変時の連絡方法を娘さんと前もって確認しておく
- ・医師、看護師と相談できる仲
- ・お薬手帳の利用

《効率的な連携》

- ・担当者会議で情報共有・なるべく娘も参加
- ・娘が来られなければ、ケアマネから伝える
- ・ケアマネから情報共有、キーパーソンになる人へ
- ・ケアマネから娘へ連絡、本人の様子を共有

【症例1】

9G

第9グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・医師、看護師とヘルパーさんの情報共有がどれくらいできているか？
- ・急変時はどんな手順で連絡をするのか？
家族が理解していたか？常に話をしていたか？
- ・意思表示ノートの内容について共有する
本人・娘・別居家族の意思確認
ケアマネが確認していくこと
- ・意思表示ノートを娘は知っていたか？
- ・娘と母・父が病状について情報を共有する
- ・介護職から医療職へ話しやすい関係づくり
- ・ほかの病気の可能性は？要介護3で医師が月2回、訪問看護が週1回
→さしせまってなかったか？
- ・がん末期とは？
医療を自己中断？、治療のしようがない？予後は？
- ・動けないはどんな状況なのか？
意識はあるのか？意思が伝えられるのか？どこなら動かせるのか？

《普段からやっておいたほうが良いこと》

- ・救命講習会を受講しておく
- ・病状悪化時の本人、家族、サービス提供者が把握できるようにする
- ・緊急通報時にみながら通報できる書面を作っておく
- ・普段のADL、他の既往歴、どこのケアマネ、バイタルの記録
- ・薬の使用状況(麻薬)

【症例2】

2 G

第2グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

(家族がいる場合)

- ・すぐに連絡し、情報を確認、連絡のつきやすい方、つきやすい時間を聞いておく
- ・家族に連絡(意識があるか、ないか確認、既往歴、薬の情報の確認、かかりつけ医の確認、マイナンバーカードの確認、診察券、保険証)
- ・家族に連絡をとる
- ・かかりつけ医に連絡をとる
- ・かかりつけ医がどこか(日中か夜間か)
- ・意識レベルなどの緊急度(バイタルがとれるか)、声をかけて返事があるかどうか、脈がふれるかどうか、痛みに対する反応があるかどうか
- ・個人情報の説明してもらい、患者の状態(呼吸、血圧、熱、意識、1人暮らしなど)

(家族がいない場合)

- ・意識レベルの確認(声をかけて返答があるのか)、なしの場合救急車
- ・かかりつけ医の確認
- ・ご近所さんとの関係、近所の人とどれくらい付き合いがあるか?
- ・薬局に来所時などに必要な情報をお薬手帳に記載しておく
- ・連絡先を探す(家族・協力者)
- ・診察券、保険証を探す
- ・周辺、近所の方で協力者がいないかを探す

《普段からやっておいたほうが良いこと》

- ・あんしんカードの確認
- ・普段から患者と密に話をし、状態を確認して介護が必要かどうか考察する。必要に応じて地域包括に連絡する
- ・かかりつけ薬剤師をもってもらい
- ・お薬手帳に病歴、アレルギー歴、生活歴が確認できるようにしておく
- ・他職種連携、介護度

【症例2】

第3グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

《市の職員が何をすべきか》

- ・お薬手帳(服薬歴、服薬情報(副作用等))
- ・マイナンバーカードで情報共有
- ・近所の方以外で本人のことを知っている人はいるのか？
- ・近所の方が良く知っているのではないか？
- ・ご家族の方へ連絡
- ・かかりつけ医へ連絡して状況を伺う
- ・家族の把握、連絡先
- ・近所の人から状況把握

《感染症予防》

- ・感染症の確認(コロナ、インフルエンザ)
- ・熱以外の自覚症状はないのか、体調確認

《普段からやっておいたほうが良いこと》

《主治医の働きかけ》

- ・介護申請の提案
 - ・年齢から考えて、いつでも救急車を呼んだ時の情報をまとめておく
 - ・あんしんカード、マイナンバーカード持参の働きかけ
 - ・家族との連絡をとる
 - ・診察券、お薬手帳をわかりやすいところに置いておくように指示する
-
- ・家族がいた場合、介護申請をしておく、近所の方との交流

【症例2】

10G

第10グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・近所の方に立ち会ってもらう
- ・かかりつけ医に連絡し、指示が本来必要と思われる
- ・キーパーソンは誰？
- ・家族の連絡先
- ・入院の必要の有無を判断する、状態の把握
- ・通報前に何か市販の薬などを服用したか？
- ・現病歴、既往、薬の情報、かかりつけ医に相談したか？
- ・薬の確認、情報（普段から服用している薬の有無、お薬手帳の有無）
- ・かかりつけ薬剤師はいるのか？（薬局連絡先）
- ・薬を服用しているとしたら、誰が管理しているのか？（どのように？）
- ・かかりつけ医にDNAR等の方針の決定はあったか。
- ・コロナワクチンの接種回数やり患の有無

《普段からやっておいたほうが良いこと》

《かかりつけ医からの助言》

- ・介護申請、ケアマネ、訪問介護等、各サービスにつなげる
- ・現病歴より訪問看護、介護申請をすすめる
- ・今後、介護認定はしておくべき
- ・訪問介護を利用できていたら、安否確認や日常の生活が見える。水分補給等
- ・近隣との関係について
- ・民生委員のかかわりの有無、つながりを作っておくとよいかも。
- ・通院時の様子を見て、介護保険の認定申請など、支援につなぐかかわりを試みる
- ・マイナンバーカードの利用
- ・ハイリスク住民のリストアップ
- ・市では把握しておくべき
- ・かかりつけ医が相談するよう話すべき、もしくは、かかりつけ医から市のほうに相談
- ・近所の人から市へ相談
- ・訪問診療時に確認、定期的な訪問

【症例3】

5 G

第5グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

《医療機関情報》

- ・かかりつけ医の存在、かかりつけ医からの情報を得る
- ・障がい者手帳の有無、病気のこと
- ・若くてもあんしんカードのようなものを書いておく

《普段からやっておいたほうが良いこと》

《患者本人の身体・生活状況を知る》

- ・どんなところに住んでるのか？
- ・食事や服薬の有無は？
- ・どの程度の息ぐるしさか？、バイタルサインは？、ADLは？
- ・ライフラインの確認、衛生管理
- ・通院治療に不定期なのは、足が悪いからか？
- ・服薬管理ができない理由は？認知機能低下？
- ・ほかの病気、心筋梗塞や肺梗塞、心不全、肺炎などの鑑別が必要ではないか？
- ・アレルギー歴や薬の内容でベータブロッカーの服用は？なんの薬を飲んでるか？
- ・パスワード、ブック、年賀状

《患者の人間関係》

- ・キーパーソン
- ・家族、友人
- ・家族関係について聞いておく。連絡してほしいところはあるのか？
- ・親族のこと
- ・職場、仕事、仕事の情報、上司はいるのか
- ・定期的に通っている飲み屋
- ・大家、生命保険会社、
- ・外部との連絡はネット・スマホ？、オタク仲間はあるのか？

《地域とのかかわり》

- ・ゴミ当番
- ・ご近所の方との関係性
- ・区長、民生委員、班長に知っていただく

《できること》

- もしものときの連絡先、友人
- 意思表示カード
- 保険
- AI、本人登録
- 受診勧奨が必要
- 通院の医師に電話する
- #7119に相談
- あんしんカード、あんしんセットの準備

【症例3】

第6グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・主治医へ連絡し、病態等の情報
- ・家族等再確認
- ・現在の服薬情報、薬の内容
- ・通院している病院について

《普段からやっておいたほうが良いこと》

- ・入院歴の確認
- ・今までの手術等したことがあるか
- ・普段から医師とのコンタクトを密に行う
- ・コミュニティへの参加
- ・緊急連絡先にクリニックを登録してすぐに連絡できるようにする。
- ・訪問介護や近所の人(民生委員)に情報を伝えておく
- ・成年後見制度の活用
- ・緊急電話の設置
- ・息苦しさの薬、ニトロ?の常備、狭心症かもしれない

《本人》

- ・自分の病状の把握をしておく
- ・主治医、お薬手帳、保険証を用意しておく
- ・携帯電話に家族の連絡先を入れておく
- ・高血圧ならば日頃の血圧値、体温等測って知っておく必要がある
- ・家族、地域、会社とコミュニケーションをとっておく
- ・生活習慣を変えて、定期受診、服薬をきちんとする
- ・かかりつけ薬剤師として同意してもらい、薬の整理、時に訪問し、その中で定期受診の重要性を説いていく
- ・一包化などの打診を医師へ行う
- ・訪問看護を介入し、体調確認、薬の管理、食生活の指導、主治医との連携をとる
- ・家族不明とあるが、普段かかわりがある方を知る(もしかしたら、家族のことを知っているかもしれない)
- ・生活保護や障がいなど、どこかにつながっているか?
- ・身寄りがないため、キーパーソンになれる方をつくる。(市役所相談)

- ・地域の区長や民生委員は本人のことを知っているか。民生委員との連携。
- ・現段階で介護保険の申請ができません。2号被保険者で特定疾病であれば申請可能です

【症例3】

8 G

第8グループのグループワーク

《このときの対応について、他にどのような方法があるか》

- ・近所の人と付き合いがあるのか知る
- ・ご家族に連絡がつくか確認
- ・外来医院の確認、病院の有無を確認、主治医の確認して病院に電話をする
- ・かかりつけ医に病歴を聞く、(現病歴、既往歴)
- ・かかりつけ薬局に情報を聞く、服薬の確認
- ・具合が悪くなる前の食事内容
- ・家族がいない場合、どのくらいまで包括が情報を知っているのか確認

《普段からやっておいたほうが良いこと》

- ・家族情報の収集、生活歴等から
- ・家族以外の介入者の確認
- ・職歴の確認
- ・ADLの確認
- ・病院の医師または相談員が介護申請をすすめる
- ・ケアマネジャーを決める
- ・ケアマネや行政などの介入の有無(訪問等頻度や直近のかかわりの有無)
- ・包括などへの連絡状況確認
- ・民生委員に生活状況を聞く
- ・通院・服薬をすすめる
- ・お薬手帳を用意しておく、胸痛時の頓服、薬の有無
- ・かかりつけ薬剤師を決めておく
- ・服薬管理をしっかり行う
- ・かかりつけ医、受診状況(最終受診日)
- ・外来診察時にお薬手帳や血液検査の結果などを玄関にファイルにでも入れて目立つように置いておく指導をする
- ・緊急連絡先をまとめて玄関先や電話の近くに貼っておく
- ・緊急通報装置などの設置、準備
- ・意思表示ノートの活用を指導する
- ・救急隊が知りたい情報を問診票等に反映